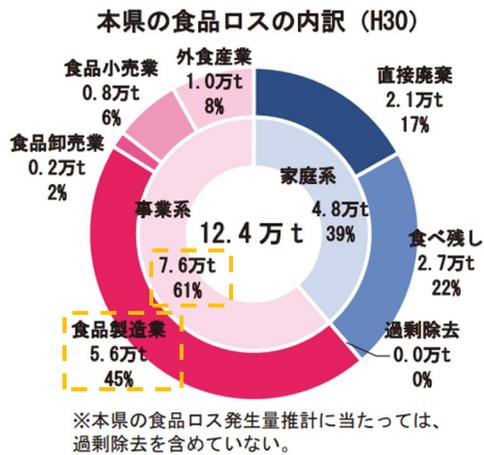


事業系食品ロス削減対策実証事業の実施について

1 概要

- 本県は全国と比べて食品ロス全体に占める事業系食品ロスの割合が高い特徴があります。【事業系：家庭系の割合⇒（本県）61%：39%、（全国）50%：50%】
- 事業系食品ロスの削減に向けて、県内の食品関連事業者等に食品ロス削減プログラムに取り組んでもらい、食品ロスの削減効果と経費節減等の経営改善効果を検証する実証事業を R4(2022)年度から実施しており、今年度は事業系の中で最も食品ロス発生量の多い食品製造業を対象に実施します。
- 実証事業により得られた成果は同業者へ横展開を行い、県内の事業系食品ロス削減機運の醸成を図ります。



【本実証事業の経過】

年度	対象業種
R4 (2022)	宿泊業
R5 (2023)	食品小売業
R6 (2024)	食品製造業

2 実証事業協力事業者

フタバ食品株式会社（本社所在地：宇都宮市一条4-1-16）

【事業内容】

アイスクリーム類、氷菓、中華まんじゅう、餃子等の冷凍調理食品
マロングラッセ及びゼリー類の製造・販売並びにレストラン、餃子店経営



「もったいない」を、
ひとつずつ。

3 実証事業の詳細

- 実証事業協力事業者の食品管理に係る現状（食品ロスの発生場面や発生量等）を把握し、効果が見込まれる対策を協議
- (1)を踏まえ「食品ロス削減プログラム」として、仕入・製造・配送の最適化を図るためのAI需要予測システムを導入することを決定
- プログラム実施による食品ロス削減効果や経営改善効果を検証し、同業他社に成果を横展開

仕入・製造・配送の最適化

概要

従来は従業員が実施していた需要予測作業をAIに代替（AIに気象情報や、過去の出荷実績等の必要なデータをアップロードして分析）して、商品やエリアごとの出荷見込み数量の予測を行う。
⇒ AI予測データを元に仕入れ・製造・配送を行った場合の効果を検証する。

対象食品

アイスクリーム類及び氷菓（サクレレモン等）

期待される効果

- 原材料段階での食品ロス削減
- 製造段階での食品ロス、製造コスト削減
- 配送段階での食品ロス、配送コスト削減

4 実施スケジュール

期間	実施内容
R6(2024). 7～10	「食品ロス削減プログラム」の実施
R6(2024).11～12	中小企業診断士による効果分析
R7(2025).1以降	実証事業成果の同業他社への横展開